キンメダイの食害に関する実態調査

～八丈島漁協所属標本船調査から～

八丈島の重要魚種であるキンメダイについて、サメ、イルカ、バラムツ等による食害の実態を調査しました。その結果、食害の発生状況は、季節や海域により違いがある可能性が示唆されました。また、被害割合と水揚げ量のデータを用いて、近年の被害量の推定を行いました。

実施機関	八丈事業所	事業名	キンメダイ資源管理手法開発研究

（背景・ねらい）

キンメダイは八丈島をはじめ、伊豆諸島における重要な漁業対象種です。一方、キンメダイに対するサメ、イルカ、バラムツ等による食害（図1）については、知見が少ないのが現状です。そこで、令和3 年8 月から令和6 年3 月にかけて、主にキンメダイを漁獲する漁船3隻による標本船調査を行い、キンメダイに対する食害の実態を分析しました。

（成果の内容・特徴）

① 被害発生率の把握

調査期間中の、月別平均被害発生率（被害を受けた日数 / 操業日数×100）は、60.0～96.8%の範囲で推移しました（図2)。また、操業があった漁場を３つのグループに区分し、被害発生割合を比較したところ、南西海域①が、操業日数が多く、被害発生率が高い傾向がありました（図3、表1)。

② 加害生物の季節別・漁場別出現傾向の分析

調査期間中の、各加害生物の月別平均出現率（出現日数 / 操業日数×100）は、サメで6月、イルカで4月と9月、バラムツで4月にピークがみられました。イルカは、他の加害生物と比較して、通年で出現率が低い傾向がありました（図 4)。一方、バラムツはいずれの月も、他の加害生物と比較して、高い水準で出現率が推移していました。

操業海域・季節区分別の出現率をみると、北部・東部海域では、通年でバラムツが卓越する傾向にありましたが、南西海域①では、夏にサメの出現率が増加していました。また、南西海域②は操業回数が少ないため、留意が必要ですが、被害がない季節区分もみられました（図5)。

このように、季節や漁場により、加害生物の出現傾向が異なる可能性が示唆されました。

③ 被害量の推定

年間被害割合(3隻平均)は、15.9～21.7%であり、水揚げ量から推定した被害量は約2,500～5,200kg/隻・年と推定されました（表2)。

（成果の活用と反映）

八丈島周辺海域のキンメダイに対する食害について、地理的・季節的な傾向や推定被害量といった基礎資料を得ることができました。今後は、食害の発生状況について、水温、流速などの海況との関係を調査し、食害の発生要因について、さらに詳細な分析を行うことができると期待されます。

（大洞　裕貴）



図１　食害を受けたキンメダイ

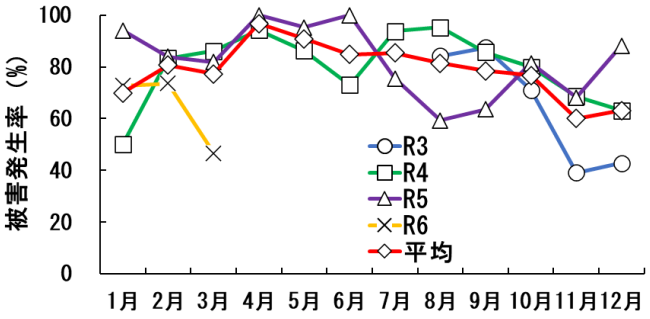


図２　被害発生率

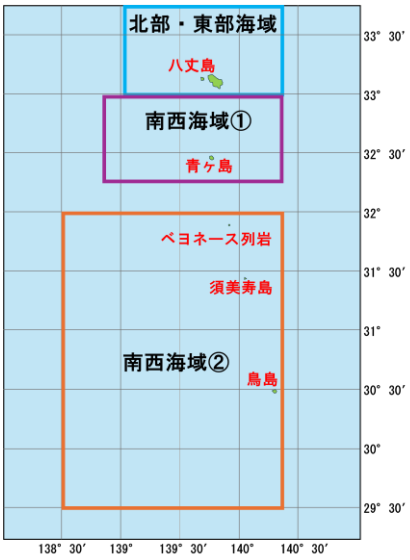


図３　八丈島周辺漁場の海域区分

表１ 各操業海域における被害発生状況

操業海域	漁場数	操業日数	被害発生日数	被害発生率（%）
北部・東部海域	8	282	186	66.0
南西海域①	13	714	631	88.4
南西海域②	6	105	34	32.4

※漁場数は調査期間中、標本船の操業があった漁場の数

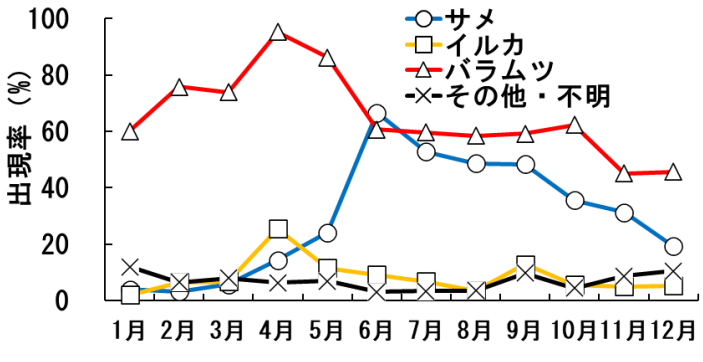
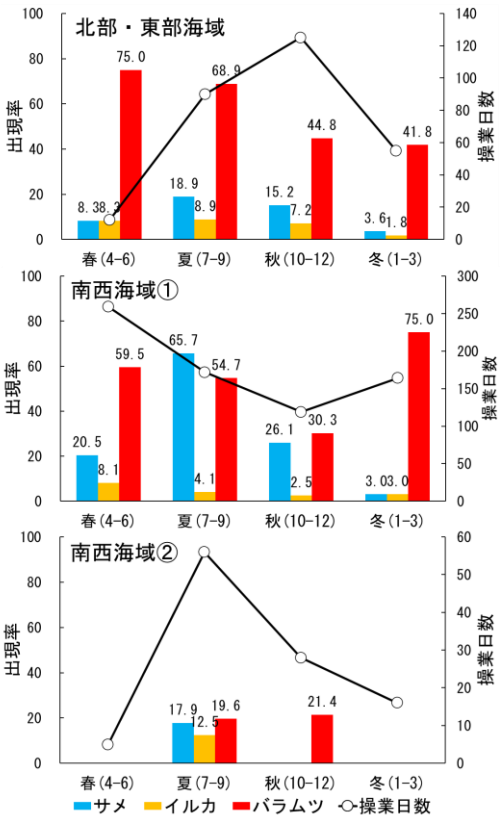


図４　各加害生物の出現率（月別平均）



※何らかの被害が発生した延べ851日分の操業のうち、漁場ごとに加害生物を特定できた714日分（83.9%）のデータを使用

図５　季節・海域別の出現率

表２　平均年間被害なし漁獲量・被害量・被害割合

	平均年間被害なし漁獲量（推定）（kg）	平均年間被害量（推定）（kg）	年間被害割合（%）
令和3年	14,460.3	2,542.5	17.6
令和4年	23,018.3	4,985.4	21.7
令和5年	32,440.4	5,172.9	15.9

※令和3年は5か月分（8～12月）の調査結果を1年間に引き延ばした。